

# 第2学年 国語科学習指導案

1組 計26人 (男子13人,女子13人)

指導者 久永浩幸

1 単元 「だいじなところに 気をつけて よもう」  
(教材「サンゴの海の生きものたち」 光村2年上)

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、教材「たんぼぼのちえ」で、時間的な順序を考えながら内容の大体を読む学習をしてきている。また、その際の読み取り方として、時間を表す言葉や理由を表す言葉、まとめる言葉などに着目するという方法を身に付けてきている。

そこで、これまでの学習を生かしながら、様々な説明の中から大事なところ(中心的な対象や事柄)に着目し、その書かれている事柄の順序を考えながら内容の大体を読むことをねらいとして本単元を設定した。

教材「サンゴの海の生きものたち」は、海の生き物の共生について書かれた説明的な文章である。文章全体が、大きく4つのまとまりで分かりやすく構成されており、海に生きる生き物たちの不思議な生態に興味をそそられる内容である。

本単元で子どもたちは、接続語や指示語に着目して読むことのよさを再認識すると共に、大事な言葉や文に着目して読むと内容の大体がよりつかみやすくなることを新たに理解することができる。また、「かかわり合い」というキーワードで生き物の関係を考えることで、本教材文のもつ本質的価値である「共生」に気付くこともできる。さらに、生き物について書かれた本を読み、そこから不思議に感じたことなどを抜き出し、それをもとに「生きものカード」に再構成してまとめることで、大事なところに着目するという本単元での「学び」を發揮することもできる。

ここでの学習は、読み取りの正確さを確認する活動を通して、叙述の順序を考えながら読む「一本の木」の学習へと発展していく。

(2) 単元の目標

海の生き物に興味をもち、それぞれのかかわり合いを読み取ったり、関連する本を探して読んだりする。 【国語への関心・意欲・態度】

図書の本などを読み、伝えたい大事なことは何かを考え、「生きものカード」にまとめることができる。 【書く能力】

海の生き物が、互いにかかわり合っていることを、事柄の順序を考えながら読み取ることができる。

語や文としてのまとまりを考えながら、声に出して読むことができる。 【読む能力】

片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を、文や文章の中で使うことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

(3) 子どもの実態

ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは、国語に対する興味・関心が高く、意欲的な学習態度で授業に臨んでいる。音読については、日常的に音読を行ってきているので、既習単元については適切な速度と正確さで読める子どもが増えてきた。書く活動については、丁寧さとスピードの両立を目指して指導を続けているが、ノートを使った学習の場合、文字が雑になったり、かなり時間がかかったりする子どもがいる。読解においては、一読では難しいが、何度も読むことで内容の大体をつかむことはできている。しかし、主語と述語の関係になかなか着目できずに、正確に読み取ることができない子どももいる。話し合いについては、多くの子どもが文の取り出しに対して発表意欲が高いが、理由や気持ちなど自分の考えを発表する子どもは限られている。

イ 本単元の内容にかかわる実態

「なぜ～でしょう。」が問題の文であることを指摘できるか。			
適切にできている	22名	曖昧である	4名
「それは～からです。」が答えの文であることを指摘できるか。			
適切にできている	17名	曖昧である	9名
指示語「これ」「この」の指し示す文を指摘できるか。			
適切にできている	22名	曖昧である	4名
時間を表す言葉に着目し、文を時間の経過に合わせて適切に並べ替えることができるか。			
適切にできている	20名	曖昧である	6名
教材に出てくる海の生き物を知っているか。			
サンゴ	20名	イソギンチャク	21名
		クマノミ	15名
ホンソメワケベラ	4名	ハタ	2名
		タカサゴ	7名
読書傾向（貸出総数の割合）			
絵本	57%	文学	24%
		自然科学	8%
		芸術	6%

説明的文章においては、問題の文より答えの文を見つけ出すことが困難な子どもが多い。また、指示語や時間を表す言葉についての理解に個人差が見られ、個別指導の必要な子どもがいる。海の生き物については、教材「スイミー」での学習で、読書コーナーに魚の図鑑等を準備していたため、興味をもって読んでいる子どもが多く、かなり詳しく知っている子どももいる。ただ、本教材の写真に登場するホンソメワケベラや教材の中で扱われていないハタやタカサゴについては、知らない子どもが多い。読書傾向については、教材「たんぼぼのちえ」の学習により自然科学の貸し出しが増えたが、全体的に絵本や文学の占める割合が高い。

3 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、子ども一人一人の「学び」が生きるように、以下の点に留意して指導していく。

「つかむ」場面では、教材「たんぼぼのちえ」を説明的文章のプレ教材として提示し、主語と述語の関係、問題の文「なぜ～でしょう。」、理由を表す言葉「～からです。」、事柄の順序などを想起できるようにする。また、あまり身近ではないサンゴの海をイメージできるように、サンゴの海に関するビデオを視聴させたり、教室に海の生き物の写真を掲示したりする。さらに、本単元で学習したことを生かして「生きものカード」作りを行うことを知らせ、目的をもって読み進めることができるようにする。そのために、海の生き物を紹介した本を集めた関連図書コーナーを設け、自ら並行読書ができるようにする。

「深める」場面では、2つの生き物の特徴やかかわり合いを叙述に即して読み取れるように、写真と叙述をつなぐワークシートを準備する。また、問題の文や理由の文、まとめの文に自ら気付くことができるように、教材「たんぼぼのちえ」の7段落から後の部分と比較する場を数回設ける。

「味わう・高める」場面では、読書傾向としてあまり高い割合になっていない自然科学の本に興味・関心がもてるように、教師によるブックトークや生きものクイズを数回設ける。また、読む本の選択に無駄な時間がかからないように、子ども向けの関連図書カードを配布し、その中から選択できるようにする。その際、読んだ本に印を付ける欄を設け、一人一人の取り組み状況を教師が把握できるようにしておく。

「まとめる・広げる」場面では、自分が調べた海の生き物を「生きものカード」にまとめて、紹介し合い、海の生き物の不思議さや神秘性について関心を深めることができるようにする。また、全員の作品を一つにまとめて冊子にし、図書室に置くことで、学習の成果を実感できるようにする。さらに、「ふりカエルカード」を使い、これまで学んだ内容と方法の中で、身に付いたことを単元レベルで確認できるようにする。

4 指導計画（全11時間）

は研究の視点に関する内容

は評価項目及び評価方法

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つかかむ	2	1 説明的文章での学習内容と学び方を想起する。	教材「たんぼぼのちえ」の文を使って、説明的文章で身に付けておくべき内容と方法を確認できるようにする。 サンゴの海と生き物の様子がイメージできるような写真と映像を準備する。 並行読書ができるように、関連図書一覧に書かれている本を準備し、コーナー作りをする。
		2 写真や映像をもとに、海の中の世界をイメージし、そこに暮らす生き物について思ったことなどを話し合う。	
深める	5 (本時4/5)	3 教材文「サンゴの海の生きものたち」の全文を読み、学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 <b>生き物の暮らし方を調べ、みんなに紹介しよう。</b>	単元のねらい達成と子どもの実態に応じ、工夫したワークシートを活用することで、生き物の特徴とかかわり合いを叙述に即して読むことができるようにする。 読み取ったことを、写真で説明させることで、叙述と写真を関連させながら読むことができるようにする。 教材「たんぼぼのちえ」と比較することで、「でも」「からです」「のです」が同じように使われていたことに気付くことができるようにする。
		4 新出漢字や分からない言葉を調べたり、片仮名の練習をしたりする。	
味高めうる	3	5 教材「サンゴの海の生きものたち」を読む。 イソギンチャクとクマノミの特徴 イソギンチャクとクマノミのかかわり合い ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合い(本時) かかわり合いを動作化して確認し、まとめる。	参考作品をもとに、「生きものカード」の作り方について確認できるようにする。 教師によるブックトークや生きものクイズをすることで、情報収集の意欲を高めることができるようにする。 本から何を書き出せばよいのか、再度確認し、すべてを写すのではなく、必要な部分だけを抜き出すように助言する。
		6 「生きものカード」作りについて話し合う。	
まとめ	1	7 図書室の本を選択して読み、そこから必要な情報を収集する。	完成した「生きものカード」を図書室に展示することで、学習の成果を実感できるようにする。 大事なことに着目して読むことのよさについて書いている子どもを紹介する。
		8 大事なことをノートにメモする。 生き物の名前や特徴 特徴の分かる絵	
		9 「生きものカード」にまとめる。	
		10 学習のまとめをする。 完成したカードを見せ合い、感想を述べ合う。 「ふりカエルカード」で、自己評価をする。	

5 本 時 ( 6 / 1 1 )

(1) 目 標 ホンソメワケベラと大きな魚たちとのかかわり合いについて、事柄の順序を考えながら読み取ることができる。

(2) 展 開 教師の言葉かけ          予想される子どもの反応          重点評価項目          は個に応じた指導

過程(分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つかむ (5)	<p>1 イソギンチャクとクマノミの関係を振り返る。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px;">イソギンチャクとクマノミは、ど んなかかわり合いをしていたかな？</span> <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 2px;">イソギンチャクとクマノミは、互いに 守り合っています。</span></p> <p>2 学習の課題を確認する。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px;">これらのしゃしんは、だれが、何をしているところだろう。</span></p> <p>3 学習の進め方について確認する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・順序よく読み取る。 体にはどんな特徴があるか。</li> <li>2つの生き物は、どんなかかわり合いをしているか。</li> <li>・大事な言葉や文に線を引く。(名前、特徴、役に立っていること)</li> <li>・写真で確認する。</li> </ul> </p>	<p>イソギンチャクとクマノミの関係を振り返ることで、「互いに」ということを意識できるようにする。          前時の事例が、「体の特徴」「かかわり合い」という順序で書かれていたことを確認できるようにする。  <b>前時までと同じ方法で読み取らせることで、その学びを一人調べに生かすことができるようにする。</b>  <b>吹き出しの言葉に読みの視点を組み込んだワークシートを準備することで、子どもの思考を助けることができるようにする。</b>          写真と叙述をつなぐことができるように、ワークシートの構成を工夫する。</p>
深める (25)	<p>4 ワークシートに自分の調べたことを書く。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習範囲を読む。   ・写真と叙述を結びつける。</li> <li>・大事なところにサイドラインを引く。</li> </ul> </p> <p>5 調べたことをもとに話し合ったり、写真で説明したりする。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px;">写真のどちらがホンソメワケベラでしょうか。 ホンソメワケベラと大きな魚は、何をしているのでしょうか。</span></p> <p><span style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 2px;">「黒いすじが一本」という文から、小さい魚の方だと思います。 ホンソメワケベラが、大きな魚の口の中を掃除しているところです。 掃除してくれるのを知っているから、食べられないのだな。 掃除しながら、餌をとるなんて賢いなあ。</span></p>	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">ホンソメワケベラと大きな魚たちとのかかわり合いを読み取ることができたか。          (ワークシート・発表)【読むこと】          ワークシートに適切にかけている子ども          叙述を写真で説明できるように、助言する。          前時の事例と同じようなかかわり合いなのかを考えるように指示する。          なかなかワークシートにかけない子ども          書く量と内容を調整したワークシートを準備する。また、場合によっては「掃除」「食べ物」というキーワードを与えて、「だれが」について考えることができるようにする。</p>
高味めわるう (10)	<p>6 2つの生き物のかかわり合い方を前時と比べながら考える。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px;">イソギンチャクとクマノミは、守り合っていたなあ。 ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いは、守り合いではないなあ。 掃除をして、食べ物をもらうかかわり合いと言ったらいいのかなあ。</span></p>	<p>写真のどちらがホンソメワケベラかという発問をすることで、ホンソメワケベラの特徴を表す文に着目できるようにする。          主語を変えることで、写真の読み取りが変わることから、「お互いにかかわり合っている」ということに気付くことができるようにする。          かかわり合いが一文で示されていないので、掃除をしていることと享受しているものに注目させることで、自ら考えることができるようにする。          「でも」「からです」「のです」の使い方を習得できるように、短文作りに挑戦させる。</p>
まとめる (5)	<p>7 今日の学習の範囲を読む。(一斉音読)</p> <p>8 本時の学習をまとめる。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px;">これらのしゃしんは、ホンソメワケベラがそうじをしてあげて、そのかわりに、大きな魚から食べものをもらっているところです。</span></p> <p>9 次時の学習を確認する。</p>	<p>学習課題にかえり、再度「主語と述語」「かかわり合い」に着目させることで、本時のまとめができるようにする。</p>